

2016 年度第 2 回物学研究会レポート

「ものづくり、デザインが変わる」

加藤公敬氏

(富士通株式会社 マーケティング戦略室 SVP)

2016 年 5 月 25 日

5月の定例会は、「ものづくり、デザインが変わる」と題し、物学研究会メンバーの富士通マーケティング戦略室の加藤公敬さんのご協力をいただき、富士通さんが運営する共働ワークショップ「HAB-YU」とプロフェッショナルDIY工房「TechShop」の見学会、その後、「未来のものづくり、デザインとは？」をテーマとしたセッションを行いました。その模様をお伝えします。

「ものづくり、デザインが変わる」

加藤公敬氏

(富士通株式会社 マーケティング戦略室 SVP)



01：加藤公敬氏

見学前に、テックショップでの活動をサポートしてくれるドリームコンサルタントの関さんから、テックショップの概要の説明を受けました。

テックショップはクリエイティブなコミュニティを生み出すために、

1. 天井高8メートルの大空間をあえて仕切らず、自然にコミュニケーションが生まれる開放的な空間づくりを実践。ファニチャーもワークショップをイメージしたカジュアルで使いやすいさを追求。

2. 人

多様なバックグラウンドもちながら、自らイノベーションを目指すクリエイティブな人々が集う。彼らの活動をサポートするのは、やはり多様なバックグラウンドとスキルを持つドリームコンサルタントたち。

3. イベント

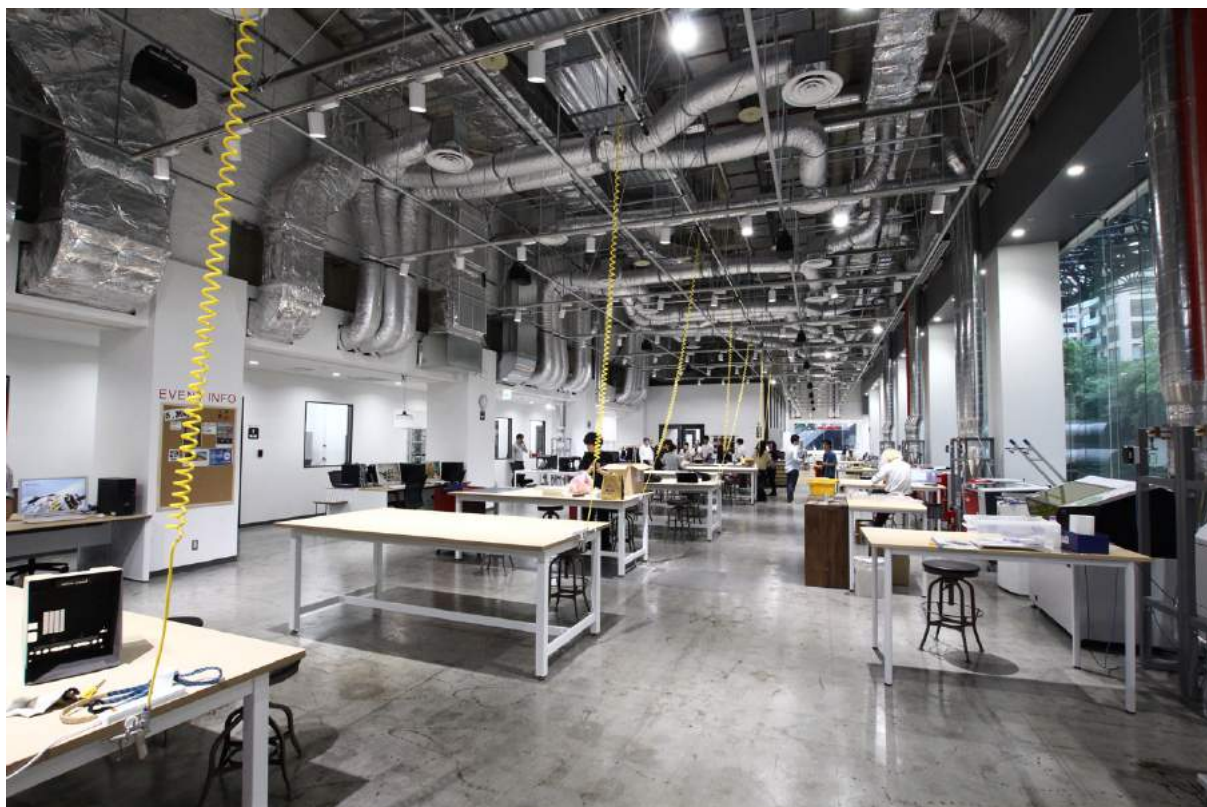
メンバー同士の交流を図り、未来を切り開くイノベーションを支援するワークショップやイベントを開催。インキュベーションセンターとしての機能も。誰もが自由にアイデアを実現できる環境を整えているとのこと。

セッションの終了後、4グループに分かれて、ウォークスルー開始。▼



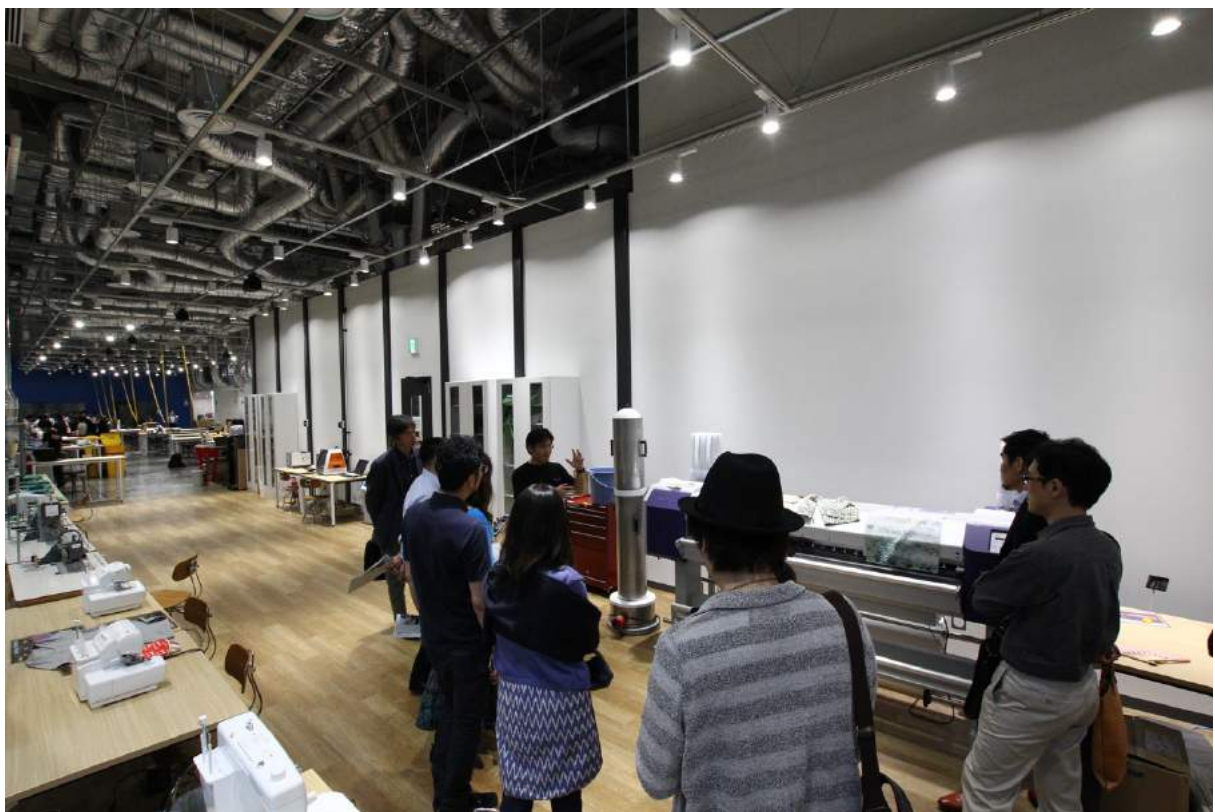
エントランスに設置されたカウンターもテックショップでDIYされたオリジナル。
スタッフがにこやかに対応。

天井高8メートルの大空間は9コーナーに分かれていて、最新の3Dコピー機をはじめ、DIY
機器が装備されている。▼





テキスタイルコーナーでは、大型ミシン、大型テキスタイルプリンター、キルトマシン、大型編み機などを駆使して、オリジナルファッション、グッズ、インテリア用品なども作成可能。▼





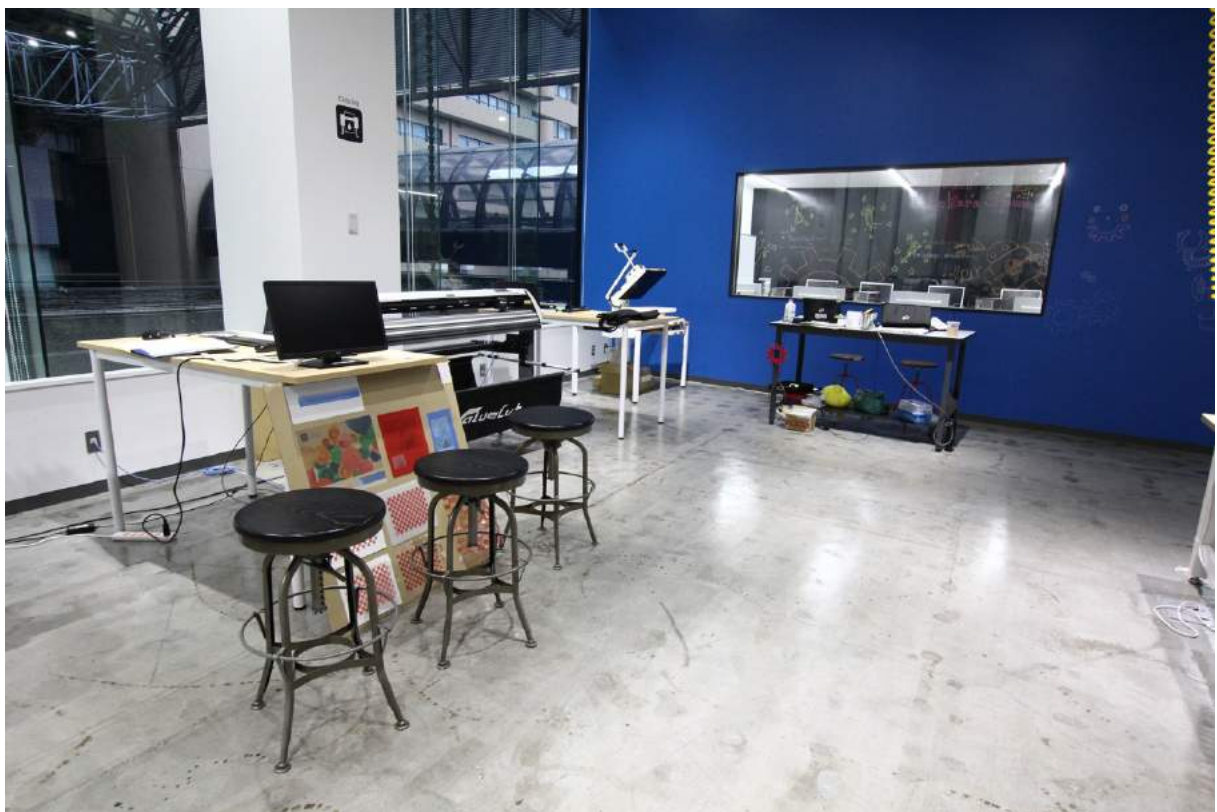


電気工作コーナーでは、プリント基板加工機、はんだこてなどが装備されている。▼





カラーリングコーナーでは、UV プリンター、転写プレス機、カッティングプリンターなどで、プロ顔負けの印刷物を制作できる。▼



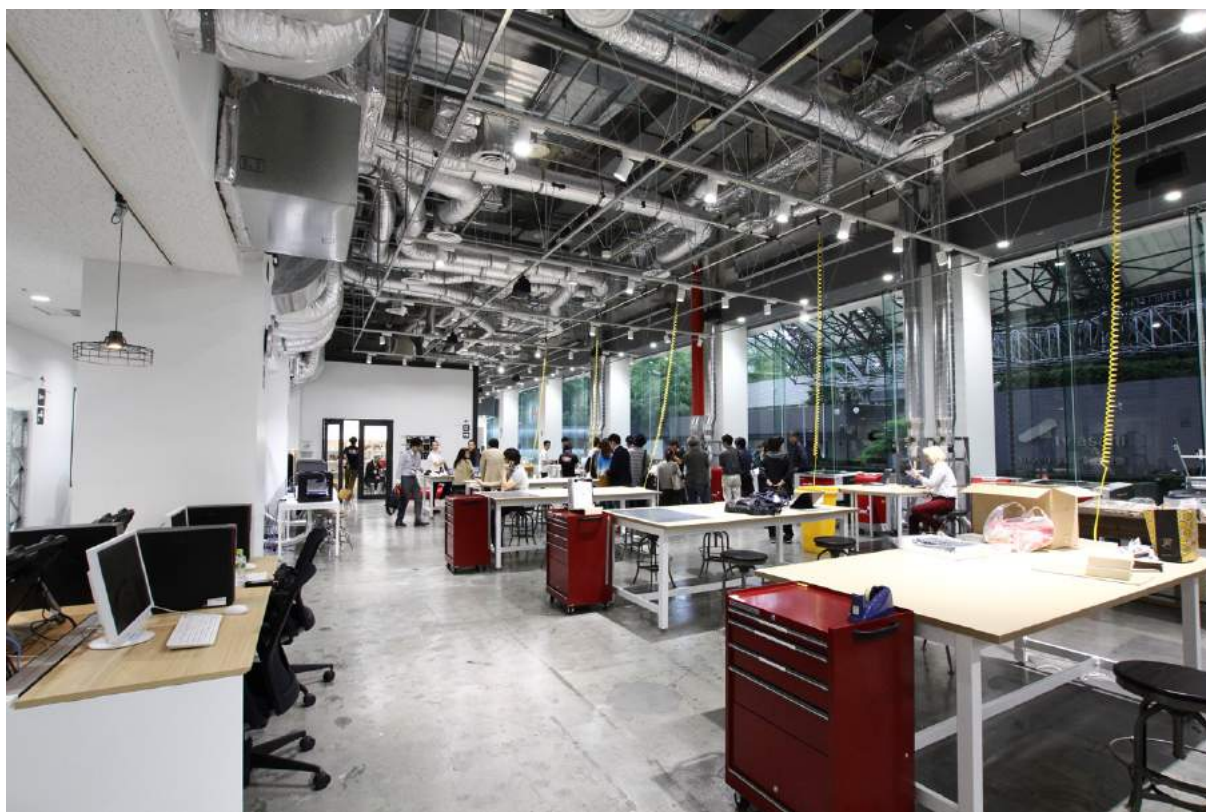


中央の樹脂加工コーナー、3Dプリンティングコーナーでは、3Dプリンター、3Dスキャナー、真空成型機などから、DIYを実践できる。▼





ワークコーナーでは、パソコンを持ち寄って、各自思い思いのアイデアを構想し、仲間との情報共有、ブレインストーミングも気軽に行える。▼



木工コーナーは遮音や粉塵対策のためクローズドなスペースで、万能木工機をはじめ、手軽なハンディツール、CNC マシニング、CNC ターニングマシンなど、本格的な木製品を作成できる機材も充実している。▼

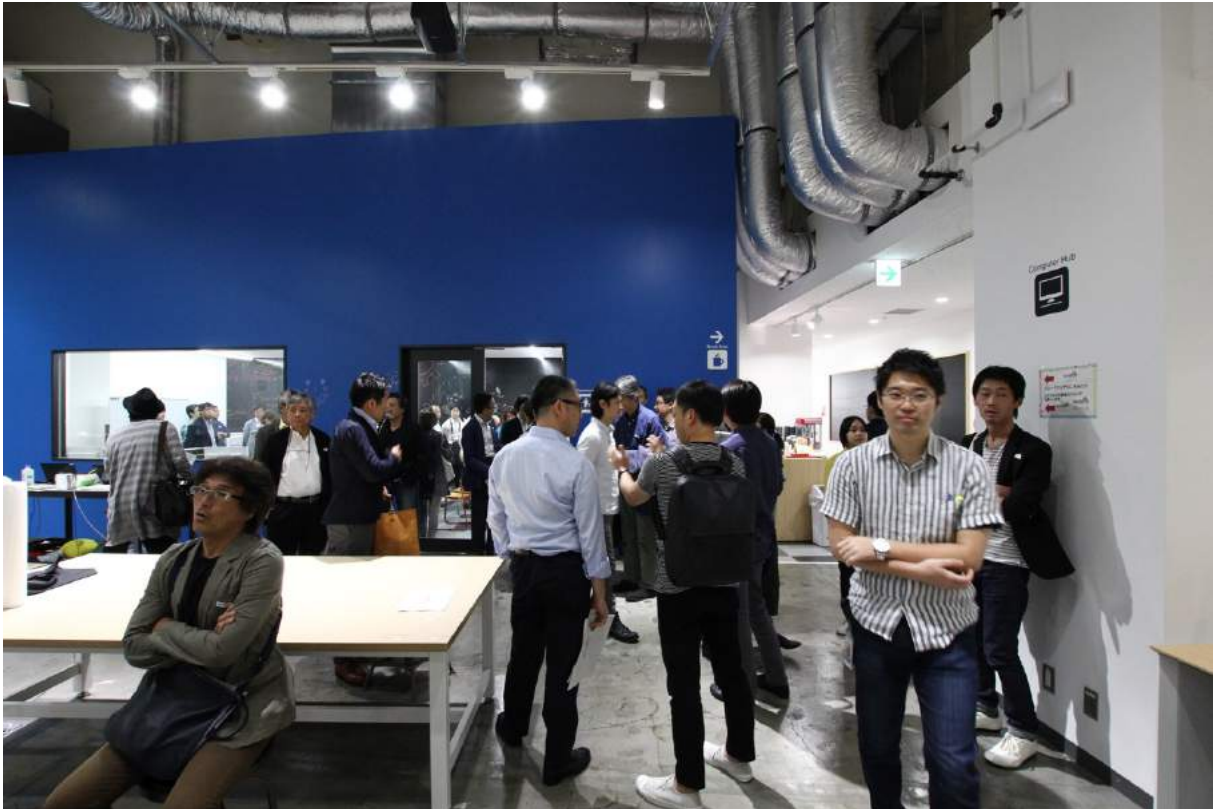


金属加工コーナーもクローズドなスペース。旋盤、ベンダー、プレス機などの基本的なマシンから、メタル彫刻機まで幅広い工機が揃っている。金属加工コーナーの本格的な溶接コーナー。本格的な溶接が可能な TIG 溶接機が配置されている。▼



その他、セミナールーム、カフェコーナーも完備。▼





第二部はテックショップから HAB-YU に場所を移して、「ものづくり、デザインが変わる」をテーマにセッションを行った。

最初に、富士通マーケティング戦略室の加藤公敬さんから、富士通がテックショップ、HAB-YU を運営する背景についてプレゼンテーションを受ける。

1. 富士通は企業経営の柱に「HUMAN CENTRIC (人間中心主義)」を置き、さまざまな戦略をたてている。そのなかの一つが「デザイン思考」、さまざまな課題をデザインというヒューマン・セントリックなアプローチから解決するための思考法である。
2. これからのイノベーションには、「共創＝オープンコラボレーション」が欠かせない。その背景には、現在のデザイン、ものづくりにはソーシャル・ビジネス・デザインという三位一体のアプローチが欠かせないからだ。
3. 富士通がテックショップ、HAB-YU などのオープンスペース、インキュベーションスペースを運営している背景にはこうした時代的な要請がある。
4. 実際、東京に限らず京都、名古屋、また世界的にもこうした場が多く誕生している。
5. テックショップはアメリカ西海岸発祥だが、そこには、これからのものづくり、デザイン、イノベーションには、頭だけでなく「手と体で考える」という、一種の職人回帰がある。
6. 自分自身でプロトタイプやモデルを作成し、自らビジネスを興していく。こうした DIY を支えるのは先端 IT であり、プログラミングの技術である。



加藤さんによるプレゼンの後、会場からの質疑応答。その後、懇親会へ。
ちなみにワークショップスペース「HAB-YU」のファニチャーは、富士通内でデザインされた MTG テーブル、ディスプレイテーブルなど多様に変化するオリジナルだ。





尚、テックショップ、HAB-YU は入居する赤坂アークヒルズを運営する森ビルは、六本木ヒルズ、虎の門ヒルズをはじめとした東京港区界隈を、投資家、企業、クリエイターを巻き込みつつ、日本における一大インキュベーションセンターに育てる仕掛けづくりを行っているようだ。

2016 年度第 2 回物学研究会レポート

「ものづくり、デザインが変わる」

加藤公敬氏

(富士通株式会社 マーケティング戦略室 SVP)

写真・図版提供

01 ; 物学研究会

編集=物学研究会事務局

文責=関 康子

- [物学研究会レポート] に記載の全てのブランド名および商品名、会社名は、各社・各所有者の登録商標または商標です。
- [物学研究会レポート] に収録されている全てのコンテンツの無断転載を禁じます。

(C)Copyright 1998~2016 BUTSUGAKU Research Institute.